

平成 24 年度 科学研究費助成事業 科学研究費補助金 基盤研究(A)
「参加型臨床実習生の質の確保のための獣医学共用試験の開発的研究」
研究者代表 吉川 泰弘

参加型臨床実習における実習学生の質確保を目的とした獣医学共用試験(vet-CAT)の
開発研究のためのアンケート調査

はじめに

獣医学教育の充実・改善の取組において、社会の要請に応えうる実践的な獣医師の養成のためには公衆衛生・衛生・臨床分野での「インターンシップを含む体験型、及び参加型臨床実習」の実施等が必要となります。

獣医師の資格がない学生が参加型臨床実習で動物(患者)を診療する場合には、必要不可欠な知識・技能・態度が備わっていることを動物所有者(飼育者)に示し、診療に参加することに同意してもらうことが必要です(獣医師法第 17 条に関する違法性阻却のための要件)。全国獣医学関係大学代表者協議会は、参加型臨床実習を行う学生の質の確保と保証のための方策について獣医学共用試験調査委員会を設け、調査を依頼しました。同委員会で検討した結果、医学・歯学・薬学の手法を参考として「獣医学共用試験」の開発を進めるべきとの結論に達しました。この答申を受け、平成 22 年 9 月本協議会に共用試験準備委員会を立ち上げました。平成 23 年 5 月文科省「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の取り纏めが公表され、「共用試験の導入に向けた検討」が具体的方策として提言されました。これらの流れを受けて、平成 23 年 9 月全国協議会に共用試験委員会など 6 つの実務委員会が設置されました。

共用試験委員会は、現在、獣医臨床教育における「診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組み」として vetCBT(コンピュータを用いた獣医学の知識評価)と vetOSCE(獣医臨床における診察技能と態度の評価)からなる獣医学共用試験(vet-CAT, Veterinary Common Achievement Test)の準備を平成 28 年度の本格実施に向けて開始しました。

獣医学において、重要な位置付けにある参加型臨床実習に臨む上で、学生の学習に関する準備が十分にできているか否かをシステムティックに検討することが vet-CAT 導入の目的です。さらに国家試験という卒業後 1 回の試験ではなく、教育課程の途上においても共用試験によって獣医師としての適格性と能力を評価する機会を設けることによって、獣医師教育の質の向上に繋がります。今回、参加型臨床実習における実習学生の質確保のため vet-CAT の開発研究を目的として、全国獣医系大学教員の皆様にアンケート調査を実施しますので、ご協力よろしくお願い致します。

平成 18 年度から正式実施となった医学部における共用試験は、認知領域の到達度(知識・問題解決能力等)を評価するコンピュータを用いた「客観試験」(Computing based testing, CBT)と、精神運動領域(技能)や情意領域(態度・習慣)の到達度を評価する「客観的臨床技能試験」(Objective structured clinical examination, OSCE)から成っています。これらの試験は医学部において全国 80 医科大学・大学医学部が協力して実施するとの意味から「共用試験」と呼ばれています。医学部共用試験の CBT は、基本的には 5 肢選択問題から成るもので、1 名の受験者に対して 320 の設問がパソコンの画面に表示され、それを 6 時間で回答するものです。設問はプールされている約 1 万題の中からランダムに出題されます。したがって、パソコン上に表示される問題は受験者によって異なります。しかし、あらかじめ各設問の難易度が決められているために、出題された問題の難易度が受験者によって著しく異なることはありません。採点は即座に実施され、いつ、どこでも、受験することが可能な試験であるため、効率的かつ利便性も高いと評価されています。

本アンケートにおいて、獣医学共用試験(vet-CAT)とは、全国の獣医系大学の学生を対象に臨床獣医学実習における参加型臨床実習の開始前に行うコンピュータを用いた知識領域の到達度評価試験(vet-CBT)および臨床技能や態度の到達度評価試験(vet-OSCE)の二つを合わせたものと定義します。

アンケート調査の〆切：平成 24 年 11 月 30 日までをお願い致します。